

小學校に於ける初年教育の標準

フレドリツクジー、ボンサー

生活能力の發達としての教育

教育は、結果としてよりも寧ろ手段として、人間生活の豊富と充實を増進するものである。

學校は生活の豊富と富と生活能力とが絶えず増進する様に、其發達を指導し速進する爲に存在する。そして人類の經驗が蓄積した。其發達増進に資するすべての事を學校メンバーに自由に處理させる。此處に二つの基本的なそして密接な問題がある。即ち一は、身體、精神、活動及社會を通じて發達する處の自然的要素を發育見する事で、他はありのまゝを觀察する事により内容及方法に於て最もよく發達を増進せしむべきものを發見し、それを最もよく使用し得る條件と材料を提供する事である。

初年教育時代に於て、總ての兒童の身體的・精神的兩方面の能力は、善なり惡なりに永久に感化され得べき發達狀態——一生の中最も危險なもの——にある。兒童の身體は、精神經統と精神行程が尋常に又機能の方を増す様に發達せしめなければならぬ、のみならず其方向も導かれなければならぬ。この發達の過程は二つに區別する爲に一つを重んじて一を等閑にする誤がある。

兒童の身體及精神活動の複雑な發達と、社會生活の問題、活動及價値、とは共に教育のどの時代に於ても決して等閑に

すべからざるものである。此の兩方面は最も豊富に教育され得るすべての経験の方面である。

發達の二要素

發達に、二要素がある。即ち自己活動、發表活動內的要素、及び外界、環境である。發達は即ちこの二者の相互作用によつて決定されるのである。

爲よつとする衝動は内側から来るが、行爲の内容は外界に依つて決められる。即ち話さうとする衝動は内側から来るのが話す言葉又話す形は、聞いた言葉又は形に従つて決められる。子兒は先天的に一つの國語を他のと同様、容易に學び得る彼等はまづあらゆる音を衝動的に發音して見て、其の中から最も耳に多く聞く言語を發達させるのである。製作の衝動は筋肉活動を起し、そこから多くの技巧が發達する。環境は、子供の喜ぶ運動的活動から来る親しみのある多くの技巧を提供する。たとへばピアノを弾いたり、ベースボールをする如き生活活動を積んだ吾々には、總ての経験の形が、個的のものと環境との組み合せであるといふ事は容易にわかる事である。たとへば發明といふような事でも、それは内的欲望か或は既習の環境の何れにも満足出来なかつた必要的結果である。精神的社會的生産と價値は、環境に依つて、身體的要素と同様に含まるべきである。初等教育の初期には兒童は、身體的精神的衝動が非常に盛である。兒童の経験の豊富さは、之等の衝動を環境がいかに満足せしむるかによる。最も教育的である爲に、そして發達の過程として、各経験は、單なる繰り返しではなく前進的な、より多くの経験へ行く踏み石の如きでなければならぬ。

社會生活に關連した發達

若し人間の生活が完成されて平靜であつて新しい物や邪魔なものが無いとすれば、教育過程は比較的簡単である。然し

人間生活の本然は、發達の本然であるそして發達の本然は變化する。生活は人間に對して絶えず是正を要求してゐる。人間は絶えず試み、創造し日々に個的及社會的是正の問題に面接する。

この故に教育は、人間生活の經驗を知らせるのみでなく、教育それ自身が前進する生活經驗の行程でなければならぬ。そして各經驗は新しい要素を持つと同時に多くの既知の要素をも含みなほ民族的に精練されたものでなければならない。

故に學校の要目は、望ましい生活經驗に依つて作られるとも言ふべきである。生活と教育とを旅にたとへるならば定つた終點を持たず絶えず進行して居り既知の地點に依つてこれまでの行程を知り、行手には絶えず招く望み多い前途が展開されてゐる様なものである。然しかような旅の行程にあつて我々は必ず未開の土地に來るのであつて我々はそれを整理し全然新しい要素で改造しなければならない。

初等教育期に於ける幼児生活の本然

初等學校の兒童に對する實際的標準を記すには、兒童の衝動と行爲の自然的傾向と環境とをまづ考へなければならぬ。兒童は環境に従つて動き、又それに依つて特殊な行爲を呼び起す。あの四、五才から八才もしくは九才の兒童の主な特長を注目する時我、彼等が思考、感情及動作に於て倦くこと無き活動さを表してゐるのを見る。又兒童は爲ると同様に考へるといふ事に注目されよ、彼等は比較的反省はしませんが經驗から多くの實行的智識を得、又智識として學んだ事を實行し得る可能性を持つてゐる、兒童の、爲ようとする意氣又その結果に對する意志は可成強い。生物、殊に人の行爲に就て強い興味を持つ。又好奇心も大層強く、觀察、探檢、研究、質問等種々の形になつて表れる。注意は強いが速かに變動する感管及筋肉は可成動的であるが、あまり細い作用には適要されない。

疲勞、習慣、過度の刺戟は多大な害を來す。

想像は躍如たるもので、屢々氣儘な創作となつて表れる。原因結果の關係も容易く理解し、簡単な説明や證據で表はされる。強い色彩と、大きい音に興味を持ち、小説其他何でも、ピクニク祭禮とか競技とか、常規を破る類の事件に最も興味を持つ。発表の衝動は強く、それは劇、發聲法構成活動研究活動となつて表れる。之等の活動に於て最も重要な要素が一つある。即ち兒童の躍如たる想像作用である、それはあまり見逃されそして等閑にされてゐる。理論としては賞讃されてゐるが實行で認められる事は稀である。學校に於て、兒童がほんの僅しか考へる事が出來ないといふ理由は、彼等の可能力の標準に依つて考へるには、餘僅少の機會しか與へられないからである。彼等は少しも考へる事が出來ないと假定してゐるからである。然し兒童は學校以外の具體的な問題や質問に就ては考へ得るのである。彼等が可成り思考を要する會話をいかに智的に話し得るかは我々日常がよく知つてゐる事である。かのゲームや遊戲に於ける兒童の才能、必要に應じて材料を適合させたり物を造つたりする巧みさ、滑稽に對する敏感さ等は、すべて思考能力の證據である。現今の兒童は考へる事が出來ないといふ説は、我々がいかに、無意味な形式的な、とりつきばのない様な問題を提出してそれに依つて兒童の思考發表を要求してゐるか、又それが出來ないと云つて彼等は考へる事が不可能だと結論してゐるか、といふ事を表してゐるのである。

學校に於ける活動が、若し生活の模範であるならば、思考の機會は眞實に、豊富でそして兒童が出來る丈熱心に携はり得るものである。抽象的方法での思考に先だつて、物の實體や其關係に就ての思考が働く。初等學校時代に於て、兒童をして實生活の活動と生活の興味に與らせないといふ事は、人生問題の大半を成す實生活に關して、思考判断する機會を奪う事になる。

兒童生活の身體的社會的環境

は、其の日常生活と環境との密接の關係に依て表はされる。此時期の児童の日常生活を見ると、實に我々の社會生活の總ての狀態に——方法としては甚だ初步であるが——携はつてゐる事がわかる。即ち年長者の狀態や事柄に就て話し合つてゐるのを聞いて質問を出したり、分解したり、討論したり又劇化したりする。児童は手の及ぶ限りの範圍に於ける道具を使用し物を作り殆ど社會の總ての活動を、遊びに依つて模倣する。

口笛を吹き、歌ひ、音樂を聞き、自分でも樂器を弾いたり、又ゲームや遊戲を一人で爲たり多勢で一所に爲たり、家庭では手傳ひをする。又自分の周囲の複雜な職業的活動を見、其實際にも携はる。即ちパン屋薬屋文房具屋等で物を買ひ、郵便局にも行けば配達夫も見る又鍛冶屋とか裁判所、掃除人夫を見る、其他、共用水とか街燈とか、圖書館、のような公立の建物に就ても知つてゐる。そして児童自身學校に行き教會にも日曜學校にも行く、又時には選舉があるといふ事も知り父が立候補すれば大いに聲援する、病院、看護婦、醫師がいかなるものであるかという事も大體は知つて居る。それから自分も家族の一員であつて其周囲には多種な狀態の家族生活があるのを見る、又政治的會合の様な社會的集合、集會所とかクラブ教會の組織會合等に就ても何事かを知つてゐる。木や花や鳥、動物を愛し、人間生活の因果とか季節や天候に依る變化の或物を感じたり評價する、又自分の屬する社會の他に別な社會があり、現代の前にも時や民族のある事を承知してゐる。此處に挙げた之等の細目、それは児童が其の環境へ實行的社會的に接觸するほんの一部にすぎないのである。

私の指摘せんとする處は、初等教育時代の児童は、直接或は間接に彼の周囲の生活、活動のいづれの狀態にも實行的に携つて居るといふ事である。かような事實からして學校の細目は最深の注意を持つて之を與へるならば、全然學校以外に於てでも、眞に興味を持て學び得るものである。然し児童はかような諸種の活動の、個々の要素などには全然無關心であり、大きな關係等に就ても知らない。世界は児童にとつては不分な單一な、そして變化して行く經驗の流れである、その中には児童に關係のある總ての成人的活動と社會問題を含んで居り——現在行はるゝ學課目の如きは表れて居ない——そ

れ等が兒童の、最も大なる環境を構成するのである。かくして兒童は、人生の目的・價値・意味及享樂に漸次多く携つて行くのであつて、其生活經驗からの形や助を要求する。そして學校に於て學習する科目は、之等の生活活動に助けとなるべきものを提供すべきである。

要目内容の根源

身體的、社會的環境の感化と、兒童の發達の方法活動並に興味との二方面を考へる時、我々は、要目は經驗それ自身の要求から、直接に出發しなければならないといふ事がわかる。兒童をして一層十分に、一層有効に、人生の行程に参加させ又彼等の成長して行く活動を前進せしむるのは何物でも、要目の中に入れるべきである。

かようにして要目は、三重の源泉を持つ事になる。即ち

1. 活動——發達を促す、處の創作的内生的發動的活動力。
2. 嘉勵的身體的社會的環境。
3. 人生の目的、價値及方法。

之等のどの要素でも缺いた處の要目は、兒童生活の本然と不調和なぞして最も高い人類理想の價値を持たぬものである。

經驗の形式と其發達の爲に學校の捧ぐべきもの

經驗には主要なる三つの型がある、表情的、印象的、説明的經驗が之である。

表情的經驗は、言語、音樂、工案、或は劇に依つて個性を表すもので、印象的經驗は、見たり聞いたり讀んだりする事に依つて外界から感化を受けるもので、説明的經驗は他の經驗と關連して更により經驗をする爲の計畫や方法へ轉化させる

ものである。之等の経験は追々擴張され合成されるが、いづれの経験にあつても、育一つが有勢になるものである。

英語。

言語に於ては経験的表情的形式と印象的形式の關係が非常に密接で殆ど兩者が一つに考へられる。學校はこの表情の方面に就ては言語發達の爲に、其環境を役立たせなければならない。——その狀態、活動を注意したり評したり報告する事に依つて——。印象的説明的方面は、よい文學の根源から來るお話、短詩、歌などである。傳説、お伽噺、自然の話詩、滑稽談、武勇談等は、すべて想像を表し、意味、價值の概念を擴大し、語原を増し、表情の精練と自在を發達させる助けになる。人に讀んで聞かせたり話したりする事、お話を劇化する事、讀んだ材料で他の活動を助けたりする事は、印象的、表情的經驗を結びつける。この各種類な内容を注意深く選ぶ時、兒童の鑑識の傾向が、高い趣味へと向けられる。手口の兩方面に於けるあらゆる形式の言語發表の機會は、構成的研究的改造的諸活動に於ても豊富に存在する。たとへば一つの構成に共力して居る時、若し教師が相當に導くなら、ば自由に討議したり、興味について、明確に考へたり發表したりする能力を發達させる事が出来る。かくして子供の、總ての経験は、言語發表の發達を力づけるものである。

音樂と技藝。

音樂的興味と理解の發達への材料として、よい歌を多くうたつたり、樂器及肉育のよい音を度々聞く機會を與へるべきである。圖案に於ても亦色、形、要素の種々な表現機會を與る事は大切な事である。織物衣服家具、床敷、壁紙其他美術品、に注意したり、之を楽しんだりする事は、藝術興味の初步の發達を助ける。音樂と技術に於ける初步の技巧は、創作使用といふ事文に止てよい。兩者に於けるどの經驗も、湧き出る様な自然的な楽しみでなければならぬ。

構成と研究。研究しようとする本然的衝動と製作は此時期の兒童の基本的要素である。之等に對しては、材料と道具を準備する事、又それに依つて思ひの儘にするのを許す事に依つて存分にさせる事が出来る、又之等は興味や、表現力

を高い程度に導く路程として使用されてもよい。單に構成する事、其處にも價值はあるが然しそれは筋肉の問題と同等にすぎない。より大なる構成的價値は、巧の上に止まらず、判断意味選擇の爲に問ひ又答へる爲に、智識を用ふる處のもので新しい要求の道を開くものでなければならぬ。總ての興味と活動から新しい興味と活動が發生すべきである。地理、文學、歴史、手工活動によつて、社會生活や職業や他の民族の生活を學ぶといふ事は、意義ある眞實の生活様式を作るのにまづ必要な事である。吾々並に他の人々が其の住居、食物、衣服、什器を、いかにして造つたかといふ事は、現在の多くの問題を喚起し其の中の或部分は研究と構成活動に依つて最も善く表はされる。織る事、陶器を作る事地圖を造る事其他多種の構成と同時に、無形式な直接研究も亦獎勵されなければならぬ、新しい興味、新しい問題、理想、意義等は多く之等直接研究から産み出される。どの構成的問題も考へると同様、爲る事の出來る様に指導されなければならぬ此活動に依つての教育的發達は手で爲る事よりも、心の方面に多く期待される、爲るといふ事は探究的心狀を多く産み出す。

満足、研究、構成等の身體的活動に加へてまだ之等に依つては満足出來ない處の強い身體的活動がある。此處にも亦心は、身體と同様重要なものである。健康により調子と身體的發達を促す處の、輕快な精神は、心が樂しまなければ身體的活動のみでは確定する事は出來ない。此處に、表情的活動と説明的經驗が結ばれるのである。地理、歴史、文學に於て見る他の民族の生活を生きるといふ事で、彼等の劇や興味は多くの民族遊戯及ゲームに戲劇と内容を齎す。

實際、總ての學校の活動は協同の實行を産み出す。指導者を選ぶ事、指導者に従ふ事、群團で仕事をする事、一般目的を助け責任を分擔する事等の爲に、そして相互活動に依つて才能が漸次發達する。協同とは二人以上の人人が、目的と興味を共にする經驗の狀態であつて、進行の方法である。協同の實行に伴つて、相互作用、注意、社會研究、社會生活に依つて協同の必要を意識する事は、實社會に於ての其の重要さを明確にする。家族、社會或は現在の生産的生活を學ぶ事に依つ

て各自、各家族、各社會と、他の人、他の家族、他の社會との連關係を明らかにするといふ事は最も重要な事である。

印象的説明的経験

自然環境、環、境の社會活動、地理歴史に依つて知つた人生の狀態又、何、何の爲、如何に、何故にといふ様な兒童の好奇心から湧き出る、無數の質問に應答する事に依つて多くの材料が提出される。自然科學、地理、歴史、美術的工業的生産的技術と公共的改造的活動は人間活動と價値に適應し又其材料となる。

機械的技術か用途への技術か

發表的、印象的、説明的活動の進行中、そこには、數へる事、裁く、事書く事、讀む事の技術或は過程の必要が漸次起つて来る。用途、を離れては之等は無價値である。之等は價値ある活動を持ち來す處の道具として至要なのである。用途が明かに認められ、増進せらるゝならば、之等の問題は單獨な學習としてではなく、紹介の初からして眞に役立つものと成る。勿論、其々の發達の爲に、特殊の教授と實習が不要であるといふのではない。なほ之等の基本的な用途以外に、簡単な道具を取扱ふとか圖を畫くとか其他多種な材料で仕事をする時の、或程度に於ての熟達は必要である。其過程は、すべて其用途としての活動の副產物として發達されるのであつて、初等學校に於ては技巧に對する實行や練習は要求しない。

摘要の内容と活動

極く家庭的な、ふだんに於て我々は兒童の様々な活動を聚集し得る。それらは自然及、社會生活が與へた内容を説明して居り又それに依て兒童が順當に育て行くのである。區分すれば――

a. ——言語或通信。及び述話、讀書、書くこと、作文、劇化、文學の各內容と過程。

b. ——音樂、リズムと旋律の內容、器樂及肉聲の階律の調和及歌書。

c. ——劇。ゲーム及運動。リズム的表情の內容と協同的過程と關係。民族的、歴史的意義と健康との關係。

d. ——技術。色と形の代表と工案、建築家具、衣服什器の適用、と其の彩色と彫刻の名作。

e. ——構成。歴史及日常生活に於ける過程と結果。

j. ——研究、質問、注意、試、説明的構成と自然研究人文地現、歴史、產業的技巧の內容。

學校生活の最も初期に於て吾々は之等の活動を各個々の內容材料に依て區別する必要を感じない。限定された準備あるプログラムは言語、文學、技術、構成、劇及ゲームの五大部分に編入される。之等は多くの問題と重複し、その區分はこれらのプログラムにもキチンと適合する。興味の四形式に因づく他の群團は、次の様である。

通知。(書くのと話すのと兩形式の)

氣分轉換。(身體的活動、文學、音樂、技術、に依て)

構成。(多種多様の形式に於ける)

研究。(自然及社會生活に關しての)

活動の形式の如何にかゝらず其れに適應した民族経験と民族活動が存在するものであつて、それらは表現や記述を發達させ又其内容を與へて社會的の仕事にも單獨な仕事にも用ひられるものである。要目的、最上の形式といふのは、之等の活動に一番よく適應する組合せと、正しい方向へと基本的發達を促す處の内容と、を備へることである。

前の分解からして發達の度に、二つのタイプがあるといふ事は明白な事である。即ち一つは、活動の各個に於ける行爲の傾向と力の進歩の度であり、他は、含蓄の度と其内容使用の度である。前者は其獨特の興味、狀態、選擇の傾向、個々の活動形式に於ける相互作用に於て測り得られ、後者は獨特の智的要素と種々な活動に用ひる機械的進路と技巧に於て測られる。書く事・讀む事・作文の如き過程に精通する爲には、我々はある限定された測定の標準と方法を持つ。又單に所有してゐる事實の知識の爲に、兒童の仕事の範圍を試みる事も容易な事である。然し、興味、傾向、活動力の發達の方向を測る爲には我々は少しも限定された標準や方法を有たない。唯我々の爲し得るすべては之等を幾分か一般的、記述的に置くといふ事である。興味に於ける發達の度、方向力を決定する方法と同時に發達の過程と理想の内容の度を見出す方法、とは吾々の大に要求する所である。

記述的標準

之等の標準は、どのプログラムや主題の何物にも依つたのではなく、唯生活に役立つ豊富なそして根本的な活動の大きな集まりである。

身體的表現及他の身的活動。身體の健康な、正順な發達、それが學校生活の各學年に於ける身體的活動と健康狀態の標準である。此發達は、里量と形に相應した増進、に依り、身的活動の興味と良き嗜好と、神系的の傾向を除く事に依て、總の機官の基本的作用に依て證據立てられる。兒童が之等の狀態を持つ様にするには、三年の終り頃から相當に清潔の習慣を發展させなければならない。即ち毎日歯を磨く事や食物に就ての清潔、ハンカチーフの使ひ方。規則正しい食事、睡眠、其他規則正しい身體的注意の他の形式等。又知識に關して、兒童は彼等の爲てゐる習慣が、何故健康の爲に重大なものであるかといふ簡単な理由を知らなければならない。又彼等は道を歩く時或は機械を据え附けた建築の中に居る時、道

具を扱ふ時危険を避ける爲にそして安全を保つ爲に、考へ深くある様に、そして其考を實行する習慣を持たなければならぬ。負傷打傷をした時どうしたらよいか、自分が火傷を受けた時又衣服に火がついた時どうしたらよいかといふ事も知らなければならない。かような不意の出来事に對して如何に處すべきかを知らしむるのは、兒童に其取扱の可能な事を意味するのではなく、應急に際し、處置し得る人の所へかけつける事が大切であるといふ事を知識として常に、持たさなければならぬのである。

之等の習慣、狀態、及知識は兒童に對する絶えざる注意に依てのみ發達させ得る。どの學年でどの位發達せしむべきかといふ事は決定し難い事である。然しそれ最も最初から、この事柄は力説されなければならない、そして機會ある時にはこの重大な健康の警告を與へ又兒童自身によつても取扱はしむべさである。

身體的遊戲、ゲーム、運動は、人格的愉快さを伴つて同時に身心の鍛練を爲し得る、最も衛生的な善い方法である。劇、或は娛樂的興味を學ぶ事に依て、歴史、文學、地理で學んだ多くの事が活用される。凡ての身體的教育活動は、愉快であつて、同様の事を幾回も要求する様なものでなければならぬ。

言語と文學。各學年及學年に關はらず如何なる時に於ても、言語の標準は、出來る丈自由と自發と明瞭を表現するものであれば何でもよろしい。兒童には變語が非常に多くある。それで教師は、兒童が表現の形に就て助力を求めてゐる様な機會のある毎に表現の質を改める様に努力しなければならぬ。人の話すのを聞いて其の内容が理解出来る様になると、言語表現（言ふ事書く事共に）の主な材料が得られる。よい事を言ふとする事、それは思考の第一である。よい發表又は興味ある事柄を多く讀むといふ事は讀む者の表現の發達を非常に進めるものである。

讀む事に於ての標準は、眞に興味と満足を以て讀んだあらゆるものである。其範圍には、お伽噺、傳説、詩、其他生活興味のあらゆる問題に關した一般の多様な報告的材料用も含む。其發達は、讀む事に依つて得た經驗の豊富さと、もつと

讀まふとする欲望の強さにある。善い読み物に於ての興味と嗜好とが、發達の最も正しい形の證據である。總ての學習は良い讀書の興味と狀態を助け得るものであつて又助けなければならぬ。三年の終りには、廣い範圍に於ての讀書興味、良き讀書習慣、良き嗜好等が可成良く確定されるものである。

研究的構成的活動。研究的、構成的活動に於ける發達は、自然界及人類社會に對する興味の増大と、其興味がどれ丈續行し得るかといふ能力の増大とに依つて測定され、其内容は歴史的公共的產業技術、地理及自然科學に於ける主題を作り出す。若し此の方面に於ける興味が増大し、總ての要求が諸問題を產出し、そして其方法が漸次改良され、成形や問題解決に於けるより大なる能力が作らるゝならば、それは正しい發達であると云ふ事が出来る。研究の仕方に依つて、發達が改善されば、それに依つて單に記憶を用ふるに止らず、重要な知識的材料を得る事が出来る。かゝる考究から兒童自身の生活と經驗を彼等にあてはめれば多くの數の必要や、讀んだり書いたり話したりする發表の必要や機會が起つて来る時には兒童は初めて面接した新しい事柄に就て教示を要求する事がある。然し其意味が教示された後は兒童の實行や練習だ出發するので教示に要した時間は、現今一般に行はるる教示に比しては、ほんの一部分にすぎないものである。自然界に就ての熱心なる考究は、自然が人に如何に及すか、又人が自然に如何に及すかといふ點に向けられる。そして、動物や花の世話、礦山や畑の產物の効用、風水瓦斯電力利用、又氣候や周圍の狀態に、いかによく生活を調和させ、衣食住を適應させるかといふ事に就て、人間が如何に自然を、最善の用途へ使つて居るかといふ事を見る。

社會生活の方面では、個々の合力が平安な全體を成すといふ事が大いに注目されなければならない。文明生活の大きな權威は、人格的責任の逃れられない系倫と相互作用と相互扶助である。現代の農業的、生産的、商業的職業的公共的改造的、宗教的社會生活に於ける、協力と勞働の事實と様式とは、兒童が彼等の考求の深さと廣さを増大すればするほど益々明らかになつて来る。第三年の終り頃に、兒童は、人類事件や興味にひかれて、自然界への興味を失つて来る。同様に彼

等は英雄的人物の冒險や發見、又其習慣や創作に對して興味を持つ様に成つて來る。彼等は疑問と考究的な氣持で充實する様になる。彼等は又自分の要求を満し得る獨立した力を持つ様に成つて來る。

技術の表現と鑑賞。技術に於ける發達は、色、形、美に對する興味の度と、質や組立を喜ぶ力とに依つて測られる。之等の發達は、生産物に圖案をしたり、それを選擇したりする事に密接な關係を持つ。發達の他の起因は、建築・彫刻・繪畫の名作を理解し樂むといふ事にある。そして之等は鑑賞と興味を養成する。

音樂。音樂に於ける發達は、聞く樂しみに依るものと歌う樂しみに依るものとに分たれる。音樂的表現として、美術や原始的詩に於てのように、極く簡単な表現を作り出す事は、音樂の、技巧と構成の兩方面を獎勵する事に有力なことである。

總ての教育的經驗は充實されなければならぬ。

此の方面に於ける總ての要求は、發達の基礎的狀態であるからして、其經驗は大に獎勵され又満足せしめられなければならない。自然界と人類界とに依て絶えず考究發問を促され獎勵されてゐる兒童のかうした欲求に満ちた狀態を、發展させて行く事は教師の大なる勤と動機によつものである。兒童の生活は、楽しい、元氣のよい前進的な冒險である。其知識は、身體的力や感じの發達の補助者として自由であるべきである。集めたり分けたりする考へ方は生活の性質を、改良して行くのに大いに大切な事である。

學習の主題に關しての發達の標準

學習の主題を、手段として又補助として、——結果として無く——それ自身重要である處の生活を良く發達させると言ふ事が、即ち私が努力して力説し來た所である。人格的社會生活の多くの相互作用に於て、兒童の傾向や力を指導し

て、相互作用の、より高い形式の方へ向はせると云ふ事は、教育に於ける最も大なる問題である。民族が蓄積した大なる富源を知らしめ、又それ等を如何に使用すべきかを教ふる事は、學習の主題を最も基本的に扱はせる。適用するべき標準といふのは健全な生活の實行である。——仕事の最上の方法と高い目的の實行と理解。改造公共活動、仕事に於ける相互作用の最上方法の實行。健康による遊び。環境の習慣と狀態と最善の技術、音樂、文學。忍耐と正直な心持。正しい生活に於ける經驗の價值を増進せしむる協同的獎勵と同情の狀態。かような多くの經驗を成就する事は種々なる行爲の意義又結果を辨別する大きな要素となる。かような傾向や考は兒童期の極くはじめから植えつけられなければならぬ事であつて、決して早すぎるといふ事はない。事實或兒童は學齡期前既に悪い傾向に染み、後から土臺を据え換へてそれをなほして行くといふ事は非常な困難であつた。自治、協同、創造力の習慣、よい働きの習慣、熱心さ、よい爲方、よい欲望は發達する様に、準備されなければならない。兒童の心は理想意味より行動への傾向、考へたり判断する習慣で満ちて居なければならない。此等の標準を細目に分ち、幼稚園と各學年の子供の傾向に応じて分類する事は教師の爲にも、必要な事であるが、それは大きな計畫であるから、狀にあてはめて自分の知識で實行して行かむ。吾々は、此の最も基礎的な、重大な、人格的社會生活に、結果し増大して行く處の、眞の發達を、保つて行かねばならない。

かくして吾人は兒童の生活其自身を十分に認める事と、其の最ものぞましい傾向と力の發達が、青年期、壯年期を貫いてまで發展して行く事を確言すべきである。且下は現——The Kindergarten and First Grade——も